

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和3年度病虫害発生予報第7号(10月)について

このことについて、病虫害発生予報第7号を発表したので送付します。

予報第7号

<予想される向こう1か月の天候(令和3年9月25日~令和3年10月24日)>

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の日照時間は平年並か多く、降水量は平年並か少ない見込みです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低10 並20 高70% 高い見込み	少40 並40 多20% 平年並か少ない見込み	少20 並40 多40% 平年並か多い見込み

(福岡管区気象台 令和3年9月23日発表1か月予報より抜粋)

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①

最新の病虫害発生状況

○Twitter (ツイッター) で定期情報や警報等発出のお知らせを始めました。

Twitterの本アカウント(福岡県農作物病虫害情報)へのアクセス

URL: https://twitter.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②

10月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	現況 (発生量)	10月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
大豆	吸実性カメムシ類	並	多	多
かんきつ	ミカンハダニ	並	やや多	並
かき	炭疽病 フジコナカイガラムシ	やや少 やや多	やや少 やや多	並 多
果樹共通	果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ)	やや多 ^{※1}	— ^{※1}	やや多
冬春ナス	ミナミキイロアザミウマ	少	少	並
冬春イチゴ	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	やや少 やや少 並	並 並 やや多	並 並 並
野菜共通	ハスモンヨトウ オオタバコガ コナジラミ類	やや少 並 やや多 ^{※2}	やや少 やや多 — ^{※2}	並 並 やや多

注1) 予報の発生量は平年（福岡県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

注2) 予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋を総合的に判断して発生量を予想しています。

※¹ 果樹共通：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）の発生量（現況、予報）は年次変動が大きいいため前年比で示している。

※² 野菜共通：コナジラミ類の発生量（現況、予報）平年比の根拠である黄色粘着板によるトラップ調査を2018年から実施しているため前年比でないため前年比で示している。

【普通作物：大豆】

1 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 9月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（±～＋）。

- ・ ミナミアオカメムシ・アオクサカメムシ

10株当たり払い落とし虫数 0.6頭

（平年 0.4頭、前年 0頭）

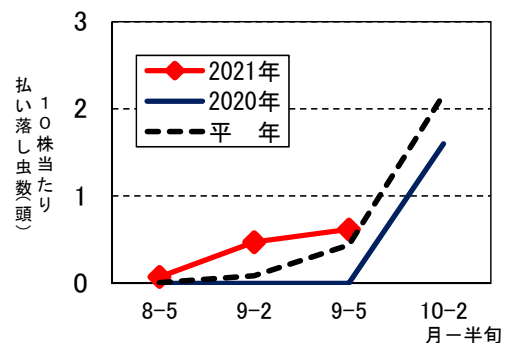
発生ほ場率 36.4%（平年 27.4%、前年 0%）

- ・ ホソヘリカメムシ

10株当たり払い落とし虫数 0.3頭

（平年 0.1頭、前年 0.1頭）

発生ほ場率 36.4%（平年 16.0%、前年 36.4%）

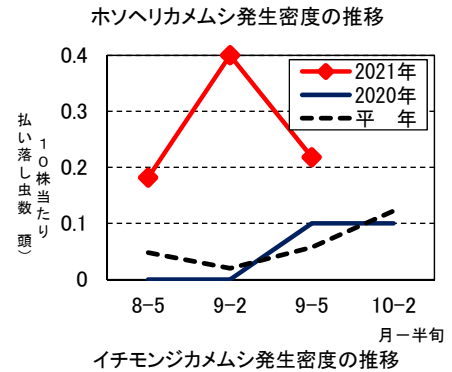
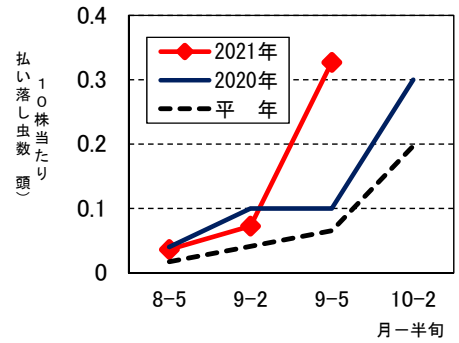


ミナミアオカメムシ・アオクサカメムシ発生密度の推移

- ・イチモンジカメムシ
10株当たり払い落とし虫数 0.2頭
(平年 0.1頭、前年 0.1頭)
発生ほ場率 18.2% (平年 10.2%、前年 18.2%)
- イ ミナミアオカメムシの県下5カ所の予察灯における5月1半旬～9月4半旬の誘殺虫数は平年より少なかった(－)。
161頭 (平年 259頭、前年 440頭)
- ウ 向こう1か月の気象予報では、多発生の条件となっている(+)。

(3) 防除上注意すべき事項

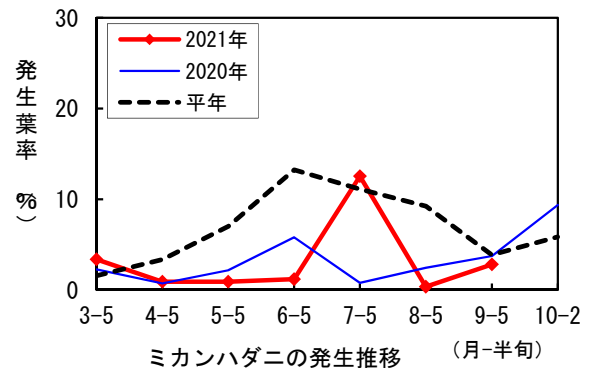
- ア 吸実性カメムシ類による子実被害は収穫期まで続くので、必ずほ場での発生状況の把握に努め、発生が多い場合は追加防除を行う。
- イ 薬剤散布を行う場合には、薬剤が着莢部によくかかるよう丁寧に散布する。
なお、カメムシ類は広範囲に移動するので、できるだけ広域一斉防除を実施する。
- ウ ミナミアオカメムシは例年9月下旬～10月上旬にかけて発生量が急増するので、発生状況には十分注意する。
- エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、P9の内容を確認の上適切に実施する(以下の病害虫についても同様)。



【果樹：かんきつ】

1 ミカンハダニ

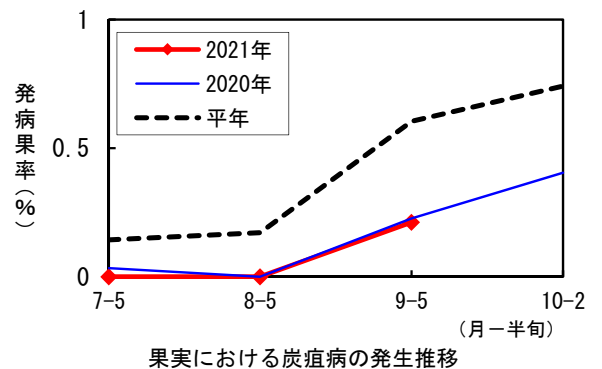
- (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多、前年並
- (2) 予報の根拠
ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。
発生葉率 2.8% (平年 3.9%、前年 3.7%)
発生ほ場率 36.4% (平年 37.8%、前年 45.5%)
イ 向こう1か月の気象予報では、やや多の条件となっている(±～+)。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 果実に寄生が認められる場合は、薬剤防除を実施する。
また、薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。



【果樹：かき】

1 炭疽病

- (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少、前年並
- (2) 予報の根拠
ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(－～±)。
発病果率 0.2% (平年 0.6%、前年 0.2%)
発生ほ場率 27.3% (平年 32.4%、前年 27.3%)
イ 向こう1か月の気象予報では、やや少の条件となっている(－～±)。
- (3) 防除上注意すべき事項
ア 伝染源となる罹病枝や罹病果は、見つけ次第園外に持ち出し処分する。



2 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多かった（±～+）。

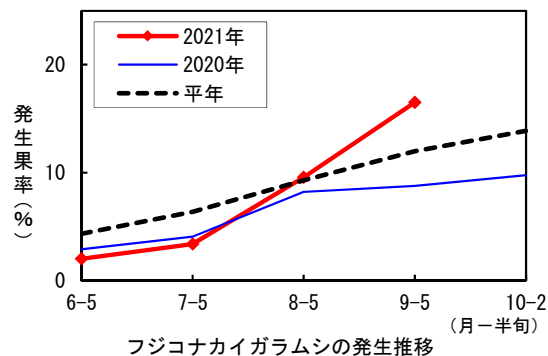
発生果率 16.5%（平年 12.0%、前年 8.8%）

発生ほ場率 90.9%（平年 86.7%、前年 63.6%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 果樹カメムシ類の防除等で、カイガラムシ類の天敵に影響のある薬剤を使用する際は、フジコナカイガラムシに効果のある薬剤を選択する。



【果樹共通：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）】

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多

(2) 予報の根拠

本年並に越冬虫数が少なかった2016年に比べ、8月4半旬～9月4半旬までの予察灯による誘殺成虫数が少ないことに加え、ヒノキ球果の口針鞘数も少なく、フェロモントラップの誘殺数も少ないことから、大きな主飛来はないと考えられる。

一方で、予察灯による誘殺成虫数は前年より多く、ビーティングによる成虫比も2016年より高いことから園地への局地的な飛来があると考えられる。

ア 8月4半旬～9月4半旬までの予察灯による誘殺成虫数は前年より多く、フェロモントラップによる誘殺成虫数は前年よりやや少なかった（+）。

①予察灯における8月4半旬～9月4半旬の誘殺数

〔飯塚市〕 1,954頭（前年 719頭、2016年 1,163頭）

〔筑紫野市〕 1,182頭（前年 252頭、2016年 3,040頭）

〔朝倉市〕 48頭（前年 127頭、2016年 176頭）

〔久留米市〕 102頭（前年 79頭、2016年 1,252頭）

〔うきは市〕 160頭（前年 97頭、2016年 23頭）

〔八女市〕 94頭（前年 32頭、2016年 1,117頭）

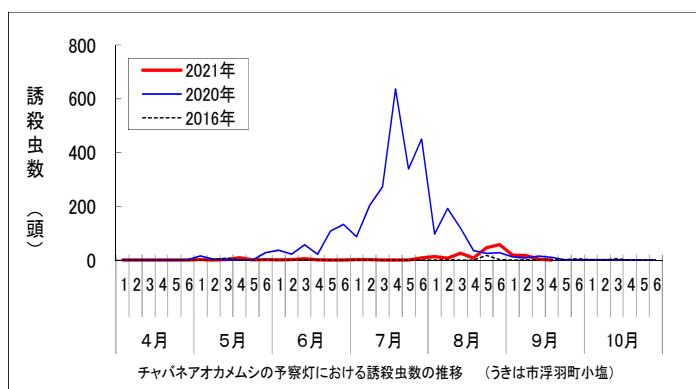
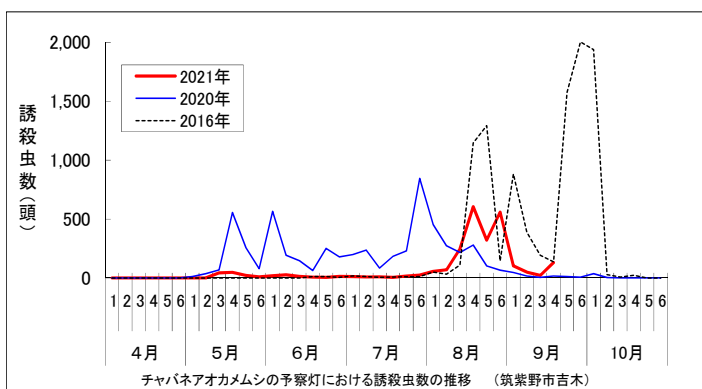
②フェロモントラップにおける8月4半旬～9月4半旬の成虫誘殺数

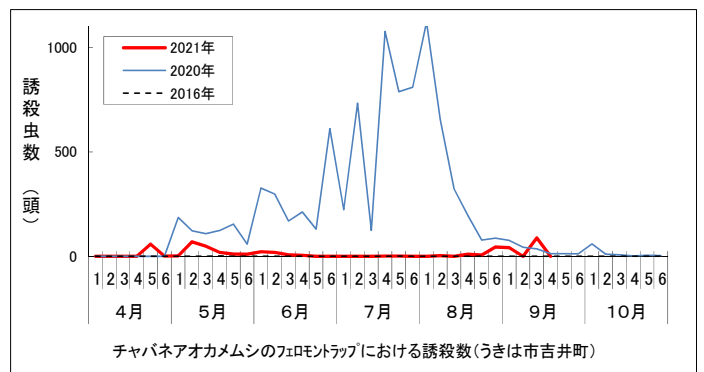
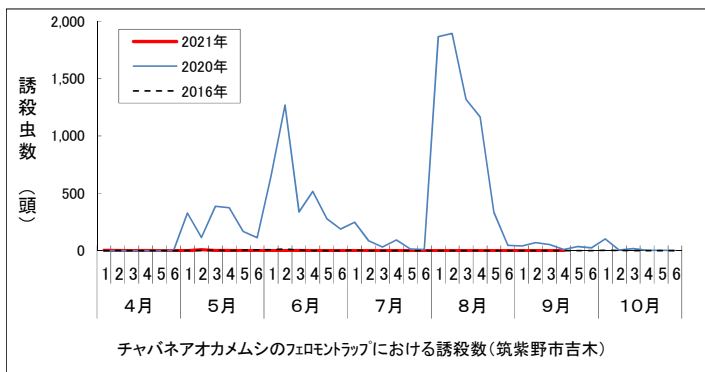
〔宗像市〕 0頭（前年 0頭、2016年 4頭）

〔筑紫野市〕 0頭（前年 563頭、2016年 119頭）

〔うきは市〕 210頭（前年 331頭、2016年 36頭）

〔八女市〕 0頭（前年 1頭、2016年 6頭）





イ 9月2半旬におけるヒノキ球果ビーティングによる果樹カメムシ類の捕獲成幼虫数は、2016年並で成虫比率は高かった(+)。

平均捕獲成幼虫数：8.9頭(前年は未調査、2016年 8.1頭)

成虫比率：67.8%(前年は未調査、2016年 22.5%)

ウ 9月2半旬のヒノキ球果の1球果当たりの口針鞘数(12地点)は2016年より少なく、ヒノキからの離脱の目安である25本/球果以下であった。

口針鞘数：10.9本(前年は未調査、2016年 20.1本)

また、5半旬(7地点)の調査では9.7本であった。

エ 9月5半旬のカキでの被害果発生量は、前年よりやや少なかった。

被害果率 1.2%(前年 2.7%、2016年 1.2%、平年 2.0%)

発生ほ場率 54.5%(前年 63.6%、2016年 27.3%、平年 44.8%)

オ 向こう1か月の気象予報では、気温が高く活動が活発化する条件となっている(+)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来時期は地域により異なる。また、同一園内でも被害発生状況は偏りがあるため、園内全体を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。

イ 広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。

ウ 薬剤防除の際は、収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。

エ 今後の発生状況等については、病害虫防除所ホームページを参照する。

<<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>>

【野菜：冬春ナス】

1 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

寄生葉率 0.2%

(平年 12.8%、前年 7.4%)

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている(±~+)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場内や周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。

イ 防虫ネット(目合い0.4mm以下)を展張し、定期的な薬剤散布を実施する。

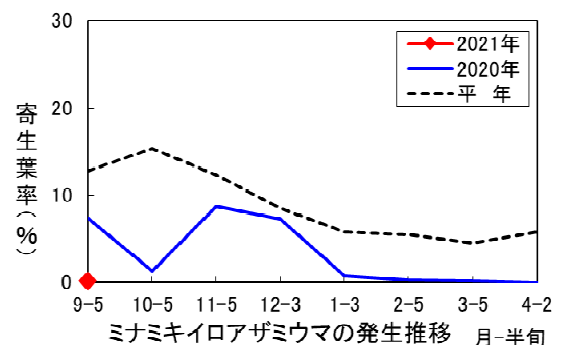
ウ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、発生初期の防除を徹底する。

エ 薬剤感受性が低下しているため、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。

オ 化学薬剤だけでは、アザミウマ類の防除に限界があるため、天敵を利用した総合的防除を積極的に実施する。

<県ホームページ掲載の「令和3年度版病害虫・雑草防除の手引き」-「IPMの推進」-「冬春ナスのIPMマニュアル」参照>

https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/592826_60879088_misc.pdf



【野菜：冬春イチゴ】

1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

発病株率 0%

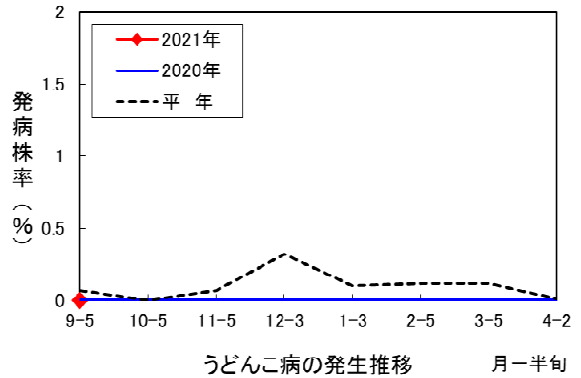
（平年 0.1%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 不要な下葉は早めに除去する。下葉かき後に防除を行うと効果的で、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ ビニル被覆後は発生が多くなるため、被覆前までの時期に重点的に防除を行う。薬剤については、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。



2 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

発病株率 0.03%

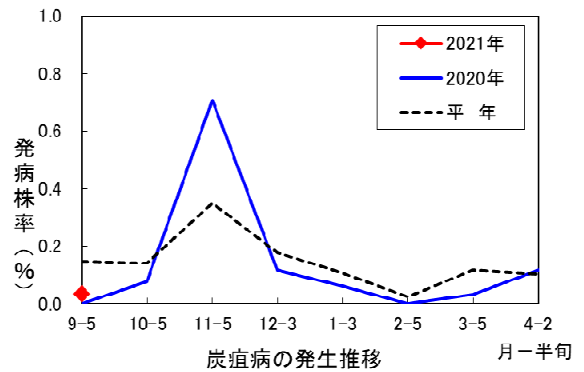
（平年 0.1%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病株は、残渣を残さずに周囲の土ごと掘り取り、速やかにほ場外に持ち出し処分する。

イ ハウス内の排水を図り、多湿にならないようにする。



3 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

寄生株率 3.7%

（平年 2.1%、前年 0.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

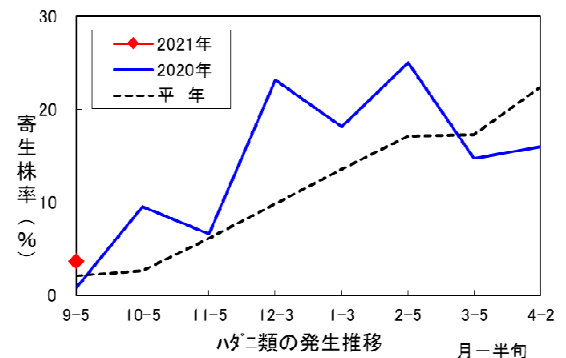
ア 本ぽではビニル被覆後に多発しやすい。多発後は防除が困難になるので、被覆までの防除を徹底し、初期密度を低下させる。

イ 薬剤感受性が低下しやすいので、気門封鎖剤も利用し、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布する。

また、ハダニ類に登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。マルチ被覆時の摘葉後に、防除を行うと効果的である。

ウ 薬剤感受性の低下により、天敵を利用した防除を実施する必要性も高まっている。その場合、天敵類への影響が長い有機リン系、カーバメート系、合成ピレスロイド系、ピラゾール系の薬剤は使用しない。

エ 親株用の苗や補植用の余り苗についても防除を怠らない。



【野菜共通】

1 ハスモンヨトウ

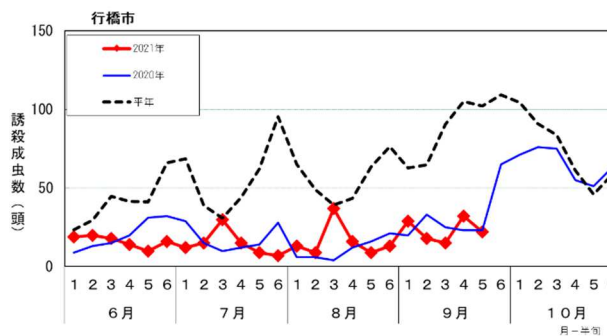
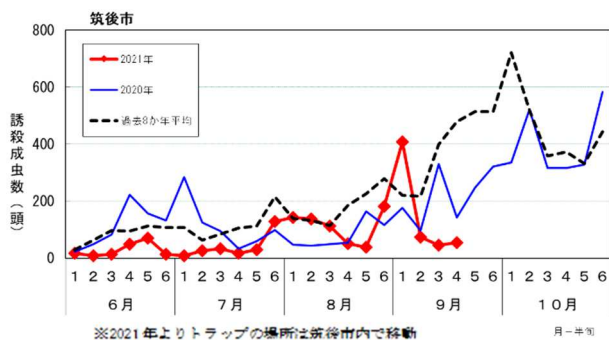
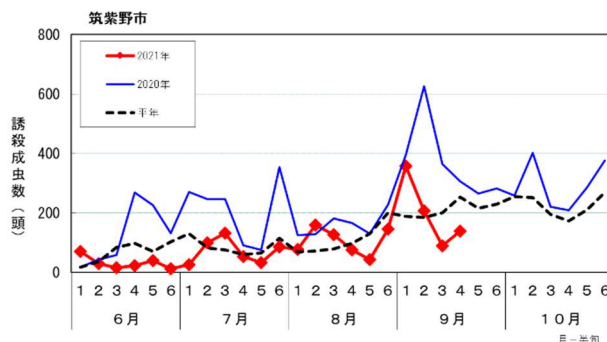
(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 9月のフェロモントラップにおける誘殺虫数は平年よりやや少なかった（-～±）。

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 地域によって発生量に差があるため、発生を確認したら直ちに防除を行う。

イ 薬剤防除は、若齢幼虫を対象に実施する。

ウ 今後の発生状況については、病害虫防除所のホームページを参照する。（以下の害虫についても同様） <<http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html>>

2 オオタバコガ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

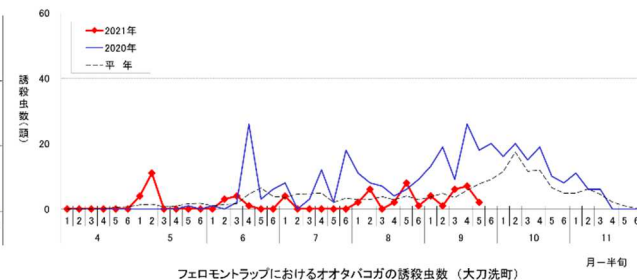
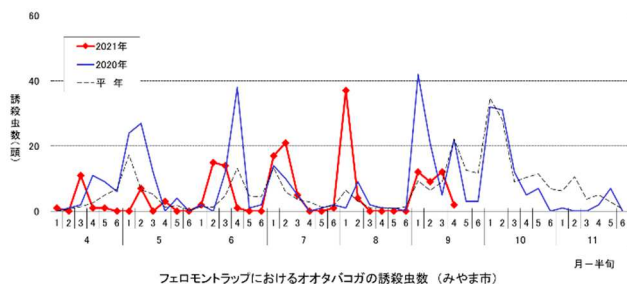
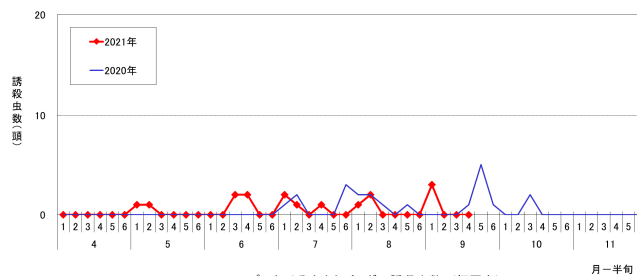
ア 9月のフェロモントラップにおける誘殺虫数は平年並であった（±）。

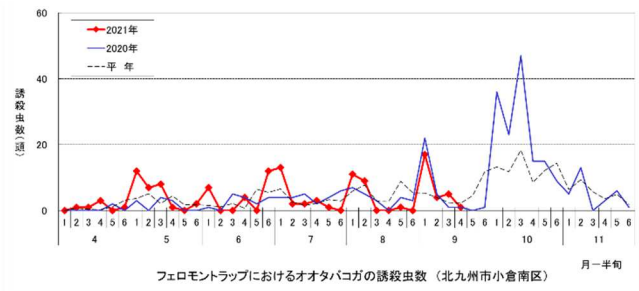
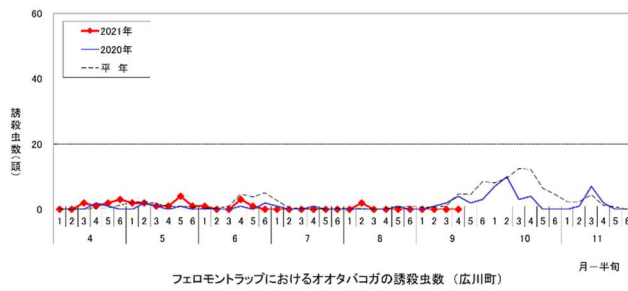
イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている（±～+）。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 地域によって発生量に差があるため、発生を確認したら直ちに防除を行う。

イ 薬剤防除は、若齢幼虫を対象に実施する。





3 コナジラミ類 (なお、トラップのグラフは調査地点の中から一部抜粋)

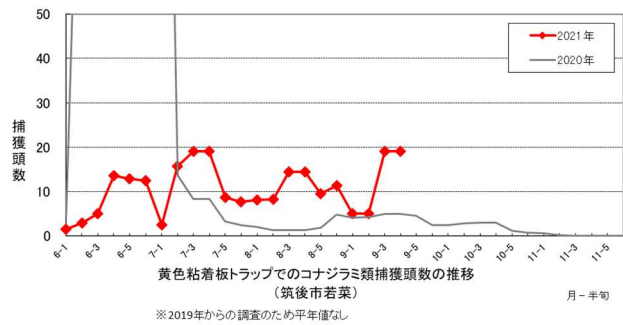
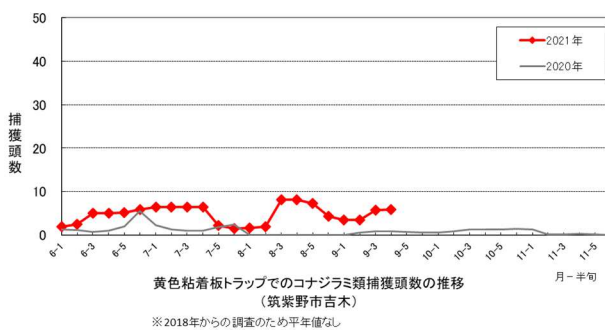
(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 9月の粘着板トラップにおける捕獲虫数は前年よりやや多かった (±~+)。

イ 向こう1か月の気象予報では、やや多発生の条件となっている (±~+)。



(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内への成虫の飛び込みを防止するため、防虫ネットの目合いは0.4mm以下にする。

イ 施設内側に黄色粘着シートを設置するなど発生状況を把握し、発生を確認したら、薬剤防除を行う。

ウ ほ場内や周辺の雑草は増殖の場となるので、除草を徹底する。

エ 「入れない、出さない、増やさない」対策を徹底する。

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、農薬適正使用の指導を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、周囲の人畜・隣接作物・河川等への配慮についてもご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

○農薬散布の実施において、周囲の生産者、住民に周知を図る。

3 保護具の着用

○農薬の散布前に、ラベルの注意・警告マークをよく確認する。マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用し、薬液を作成する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄し、残液はほ場外への流出や環境や後作に影響を与えないよう配慮して、ほ場内の農作物が植え付けされていない土壤にまく。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、地域の農業用廃プラスチック適正処理推進協議会が実施する回収や、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。また、野焼きは『廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）』で禁止されているので、絶対に行わない。